

地域探究スキルプログラムの設定

環境や防災等、持続可能社会構築のための地域社会における学際的な課題に対して、「地域の中で行動する力」「地域の課題解決に向け提言する力」「地域に貢献できる力」を備えた人材を育成するための地域探究スキルプログラムをワークショップとそのまとめとサミット、高大連携フォーラムを設定して実施した。

a 地域探究スキルワークショップ（3回）

環境や防災等の学際的な課題について、各学校が地域とともに探究活動を行う上で必要となる様々なスキルを学ぶとともに、連携校生徒が学びを生かした実践活動についてのディスカッションを行う。

・第1回テーマ：『課題を発見する』 7月28日（土） 須磨海浜水族園（神戸市）

○ プログラム1 探究スキル：「問題意識を共有する」

アイスブレイキングとして、参加生徒による自己紹介と各校における探究活動や地域での実践活動を紹介する。その後、これからワークショップを受講する際の共通目標を確認する。

○ プログラム2 探究スキル：「課題を発見する①（データを元にした）」[AM:実習、PM:考察]

須磨海浜水族園吉田園長の指導により、須磨海岸における海岸測量計測実習を実施し、定量的データを元に課題を発見する手法を学ぶ。

○ プログラム3 探究スキル：「課題を発見する②（聞き取りによる）」

地域で環境改善活動に取り組んでおられる方から、活動を進めていく上での苦労や工夫を聞き、データではうかがい知れない地域の課題を発見する手法を学ぶ。

○ プログラム4 探究スキル：「課題を発見する③（自らの地域）」

参加生徒によるディスカッションを行い、各学校や各地域における課題について、意見を出し合う。テーマ：「自分たちの地域にはどのような課題があるのか」「どのような方法でその課題を発見することができるのか」

・第2回テーマ：『先進事例を研究する』 9月1日（土） 三郎島漁港（岡山県）

○ プログラム5 探究スキル：「地域探究先進事例研究①」[AM:実習、PM:講義]

三郎島漁港で、漁業協同組合の方の話を聞くとともに、漁船への乗船実習や海岸でのゴミの採取活動等に取り組む。合わせて地域の高等学校での地域探究先進事例について話を聞く。

○ プログラム6 探究スキル：「地域探究先進事例研究②」

連携校の中で、すでに環境や防災の問題について地域実践活動を行っている学校の活動発表を聞き、学んだこと研究したことをどのように地域課題解決に活用できるのか考える。

○ プログラム7 探究スキル：「先行研究に学ぶ」

参加生徒によるディスカッションを行い、学んだことを各学校での地域探究活動にどのように生かしていきたいか等について意見交換する。

・第3回テーマ：『発表方法や地域社会への貢献方法を学ぶ』 10月28日（日） 人と防災未来センター（神戸市）

○ プログラム8 探究スキル：「効果的な発表・展示方法を知る」

「人と防災未来センター」の施設見学を行い、防災についての知識を得るとともに、効果的な展示方法や発表方法について学ぶ。

○ プログラム9 探究スキル：「探究の方法について学ぶ」

兵庫県立大学大学院の協力の下、ArcGIS を用いたミニ探究ワークショップを実施する。生徒は小グループに分かれテーマを決定し、データ収集、考察等の探究方法について学ぶ。

○ プログラム10 探究スキル：「課題研究を通じた社会貢献の可能性を探る」

参加生徒によるディスカッションを行い、各学校における課題研究や地域での具体的な実践について意見交換し、どのように社会貢献ができるか、その可能性を話し合う。

b 環境・防災地域実践活動高校生サミット 11月18日（日） 尼崎小田高等学校

連携校を中心にサミット参加校が地域実践活動を含めた研究成果を口頭やポスターで発表するとともに、参加生徒が探究活動を地域実践につなげることにについてボード・ディスカッションを行う。

c 高大連携フォーラム in 京都大学 12月22日（土） 京都大学

京都大学を会場に、連携校生徒がサミットで発表した内容を京都大学生に向けてポスター発表し、京都大学大学院生及び学部生との意見交換を行う。

各プログラムの実施内容

各プログラムは、11月の高校生サミットでの参加校生徒がディスカッションを行う上で必要な、環境・防災地域実践活動についての生徒実行委員会、地域探究スキルワークショップ、発表会を組み立てた。各プログラムとも、生徒アンケートの分析、実行委員生徒の育成力を測るポートフォリオを行い検証した。

◆第1回生徒実行委員会・地域探究スキルワークショップ①（台風接近のため時間短縮）

- 目的
- ・高校生サミットでのディスカッションの企画や運営をするため生徒実行委員会を組織する。
 - ・環境や防災等、持続可能社会構築のための地域社会における学際的な課題に対して、「地域の中で行動する力」「地域の課題解決に向け提言する力」「地域に貢献できる力」を備えた人材を育成する。
 - ・環境教育プログラムとして、水族館を研究機関として活用するプログラムを開発する。

実施日時 平成30年7月28日（土）9：50～15：00（9：45受付）

実施場所 神戸市立須磨海浜水族園（神戸市須磨区若宮町1丁目3-5 TEL：078-731-7301）、須磨海岸

参加者・人数 参加校：6校 参加者：57名（生徒38名、教員14名、大学院生5名）

実施内容 ①学びのポイント説明とアイスブレイキング ②海岸実習（海岸測量、調査、記録、砂サンプル回収）
③地域実践活動紹介 ④生徒実行委員会（共同調査の今後の計画）

事業の効果とその評価

海岸実習や結果分析、吉田園長による講義などを通して、須磨海岸の実態についてより詳しく、体験的に学ぶことができた。

当日の様子



◆第2回生徒実行委員会・地域探究スキルワークショップ②

- 目的 高校生サミットに向けて生徒実行委員会によるワークショップにより、瀬戸内海の実態や防災についての基本的知識を養う。

実施日時 平成30年9月1日（土）11：00～15：00

実施場所 三郎島漁港（岡山県浅口市寄島町16091）

ふれあい交流館「サンパレア浅口」〒714-0101 岡山県浅口市寄島町16091-23
TEL 0865-54-3110

参加者・人数 参加校：7校 参加者：75名（生徒57名、教員18名）

実施内容 ①船上実習 ②海岸実習 ③先進事例紹介

事業の効果とその評価

実際に海に出て実習をすることで知識を得るだけでなく体験的に学ぶことができた。船上実習や海岸実習での実習を通して他校との交流が活発に行われた。海岸では地元とは違う地形に触れることができた。実際の海や揚げられた生物、ゴミを観察したり、地元とは違う海岸の様子を観察したり、実習目的をさらに発展させて積極的に活動をしている生徒達の姿が見られた。

当日の様子



◆第3回生徒実行委員会・地域探究スキルワークショップ③

- 目的
- ・環境や防災等の学際的な課題について、各学校が地域とともに探究活動を行う上で必要となる様々なスキルを学ぶとともに、連携校の生徒が学びを生かした実践活動についてのディスカッションを行う。
 - ・高校生サミットに向けての生徒実行委員会に向けた研修と生徒情報交換を行う。

実施日時 平成30年10月28日（日）9：35～16：30（9：20受付）

実施場所 人と防災未来センター 〒651-0073 兵庫県神戸市中央区脇浜海岸通1丁目5-2

TEL (078)262-5050

兵庫県立大学神戸防災キャンパス防災教育センター（減災復興政策研究科）

〒651-0073 兵庫県神戸市中央区脇浜海岸通1丁目5-2 人と防災未来センター東館内

TEL (078)891-7376

参加者・人数 参加校：7校 参加者：75名（生徒46名、教員17名、来賓4名、大学院生8名）

実施内容 ①施設見学 ②講演（浦川准教授） ③GISを用いた実習 ④振り返り

⑤生徒実行委員会（高校生サミット役割分担の決定）

事業の効果とその評価

講演や施設見学、施設体験を通して地震や災害に対する知識を得ることができた。起こった災害に対する対応も大事だが、それよりも災害が起こらないようにすることや、起こる前の備え・減災が大事であることが理解できた。ディスカッションではそれぞれ各校では思いつかなかった発想や視点（マンホール、災害時のトイレ、消火栓、外国人など）を得られた。

当日の様子



◆平成30年度 環境・防災地域実践活動高校生サミット

（第8回瀬戸内海の環境を考える高校生フォーラム）

目的 ・これまでの環境の取組に併せて環境と密接な関係のある防災の視点まで広げ、課題研究や探究活動を地域で実践することについて考える。

・高校生サミットを通して、今年度の生徒の主体的・協働的活動の人材育成の効果を検証する。

実施日時 平成30年11月18日（日）10:00～17:00（9:30受付）

実施場所 兵庫県立尼崎小田高等学校（兵庫県尼崎市長洲中通2丁目17-46 TEL.06-6488-5335）

参加者・人数 協力校：32校（発表参加校14校、紙面参加校18校）

参加者：138名（生徒73名、教員31名、来賓32名、大学院生2名）

実施内容

時間	内容	実施内容詳細
9:30	受付	
10:00	開会式・挨拶・来賓紹介	開会挨拶、趣旨説明、日程概略説明
10:20	口頭発表	兵庫県立尼崎小田高校、広島県立広島国泰寺高校、神戸市立六甲アイランド高校、来賓（東崎様）
11:00	アピールタイム	ポスター発表CM（2分×16組）
11:40	昼食休憩（集合写真）	（ディスカッション司会・記録打ち合わせ）
12:30	ポスターセッション	各校による研究ポスター発表
14:00	ボード・ディスカッション	各校の課題研究の内容をどのように地域実践につなげるか、どう地域に知ってもらうかについてホワイトボードを用いたディスカッションを行う
15:30	報告会・講評	各グループで出た意見を発表し、共有する 講評：須磨海浜水族園園長 吉田裕之様
16:30 17:00	閉会式・アンケート 講評・閉会挨拶	アンケートを実施 講評：神戸大学 川井浩史教授 兵庫県教育委員会高校教育課指導主事 北上景章氏

①口頭発表 代表校による研究内容と卒業生による研究を通しての得られたことについて発表した。

②アピールタイム 各校のポスターセッションの内容について簡単に紹介した。

③ポスターセッション 各校の課題研究の成果発表を行った。発表内容は各地域の海の環境や防災・地域実践活動など様々な分野の研究があった。

④ボード・ディスカッション 8班によるホワイトボードを活用したディスカッションを行った。「課題研究の内容をどのように地域実践活動につなげるか、どう地域に知ってもらうか」を共通テーマとし、各校の資料をもとに各校の項目についてディスカッションを行った。

⑤報告会 班によって様々な視点からディスカッションを展開し、考察する上でそれぞれの班独自の工夫がみられた。多くの班では5W1Hの視点で発信していく手法が使われていた。

事業の効果とその評価

今年度は、環境・防災など地域実践という大きなテーマに対してどう考えていくか、高校生として何がしたいか、何ができるかという新たな目標に向けて取り組んだ。このことは、これまで取り組んできた成果をまとめそして発信していくという「地域への主体的な行動や貢献」へと新たな発展した段階に進むことができた。

当日の様子



開会式



口頭発表



アピールタイム



ポスターセッション



ボード・ディスカッション



ディスカッション報告会

◆第4回生徒実行委員会・高大連携フォーラムin京都大学

目的 ・「平成30年度環境・防災地域実践活動高校生サミット」へ向けての取組のまとめと振り返りを行う。

・サミットの取組の成果を、京都大学で大学生へ向けて発表を行い、今年度の活動の成果をまとめる。

・生徒実行委員会による企画・運営を通じた高校生サミットの生徒活動による人材育成の効果を検証する。

実施日時 平成30年12月22日(土) 10:30～16:00 (10:00受付)

実施場所 ・京都大学吉田キャンパス 人間・環境学研究科 大講義室 (B23)

〒606-8501 京都市左京区吉田二本松町 吉田キャンパス 吉田南構内

・京都大学総合博物館 〒606-8501 京都市左京区吉田本町 TEL 075-753-32720

参加者・人数 参加校：7校

参加者：121名(生徒53名、教員16名、大学教員1名、大学生40名、大学院生11名)

実施内容 高大連携フォーラム①アピールタイム、ポスターセッション②昼食(京都大学大学生と交流会)

③大学・総合博物館見学(大学生引率で各班で見学)

④第4回生徒実行委員会(高校生サミットの振り返りと今後について)

事業の効果とその評価

アンケート結果は「高校生同士の交流は、刺激になったと思いますか」という質問項目について肯定的な意見が100%であった。また、「今回の内容はためになった」や「新しい発見があった」、「知識を高めるのに役立った」、「内容が自分なりに理解できた」について肯定的な意見がともに9割を超えた。大学生や大学院生に対してプレゼンするプレッシャーや鋭い視点からの質問に答えることを通じて、コミュニケーション能力が身についたと感じた参加者が多かった。また、研究の進め方や着眼点についてアドバイスをもらえるなど、今後の探究活動の指針を得ることができた。

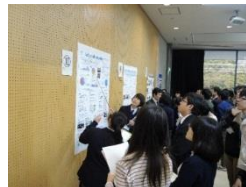
当日の様子



開会式



アピールタイム



ポスター発表



大学院生、大学生からの助言



生徒実行委員会



講評